＊＊

「海の生き物を守る会」メールマガジン　No. 84　　2011.8.17（水）

うみひるも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html

＊＊

「今月の海の生き物」　イボハタゴイソギンチャク　*Stichodactyla haddoni*

刺胞動物花虫綱のイソギンチャクで、熱帯・亜熱帯地方のサンゴ礁に分布する。流れのある浅い砂の海底に生息している。大型のイソギンチャクで、写真の個体は直径 30cm 以上にもなる。触手は非常に多く、短いイボ状を呈している。クマノミやトウアカクマノミと共生することが知られており、クマノミ類の飼育を趣味とする人たちにはおなじみのイソギンチャク。ダイバーなどには、カーペットイソギンチャクという通称でも知られている。周辺の海草は、ウミジグサ。

（沖縄県名護市嘉陽にて向井宏撮影）

＊＊＊

目次　　「今月の海の生き物」　イボハタゴイソギンチャク

１．　海の生き物とその生息環境に関するニュース
２．　海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
３．　海の生き物とその環境に関する出版物・DVD など
４．　きらめく動物たちの命と海　久保田信の白浜だより（その１０）
５．　事務局便り
６．　編集後記

＊＊＊

横浜康継会員が総理大臣表彰　「海洋に関する功績」で

7月15日に会員の横浜康継さんが「海洋立国推進功労者」に推薦され、内閣総理大臣から表彰されました。この海洋立国推進功労者表彰の対象には「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野と、「海洋に関する顕著な功績」分野の２部門があります。横浜さんは「海洋に関する顕著な功績」分野の自然環境保全部門として表彰されました。受賞理由には海藻おしばを用いた自然環境教育活動があげられています。横浜さん、おめでとうございます。

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●海洋センサス科学推進委員会が　コスモス国際賞を受賞

コスモス国際賞委員会（委員長：岸本忠三）は、2011 年（第 19 回）コスモス国際賞受賞者に、海洋生物センサス科学推進委員会（事務局はアメリカ）を選んだ。10 月に受賞記念講演会を東京・大阪で、授賞式を大阪で開催する。授賞理由は、以下の通り。

海洋生物センサス科学推進委員会は、海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査･解析し､そのデータを海洋生物地理学情報システム(Ocean Biogeographic Information System：OBIS）という統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス（Census of　Marine　Life：CoML）」を主導した。海は、地球表面積の７割を占め、陸上に比べはるかに人類の手が及ばない未知の場所である。そこに住む生き物の歴史や多様性を調査した海洋生物センサスは、様々な分野の研究者が協同した学際的かつ統合的なプロジェクトであり、環境と密接に関わり合って複合的なシステムを作っている生命系の本質を探ろうとするものとして、「自然と人間との共生」という趣旨に合致する

ものである。海洋生物センサス科学推進委員会が、前例のない国際プロジェクトを統括、推進し、多大な成果を上げたことはコスモス国際賞の授賞にふさわしいと評価した。

●横浜康継さんらが総理大臣表彰

「第 4 回海洋立国推進功労者表彰」（内閣総理大臣賞）に、5 名 2 団体が表彰された。「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野では、普及啓発部門に堀江謙一氏（海洋冒険家）、科学技術部門で小池勲夫氏（琉球大学監事）、地域振興部門で岩手県立宮古水産高等学校と瀬戸内国際芸術祭実行委員会、「海洋に関する顕著な功績」分野では、科学技術振興部門に鈴木款氏（静岡大学教授）、海事部門で吉田宏一郎氏（東京大学名誉教授）、自然環境保全部門で横濱康繼氏（元南三陸町自然環境活用センター所長）が選ばれた。

【全国】

●魚介類の放射能モニタリングとデータの開示を要請　グリーンピース

国際的な環境保護団体のグリーンピース・ジャパンは、福島第一原発事故による海の生き物への影響についての独自の海洋調査の結果と政府への要請を発表した。その結果は、福島県小名浜沖の釣り人からもらい受けた魚 8 サンプル中 4 サンプルから、政府の暫定規制値を超えたセシウムが検出された。魚介類は、われわれの日常の食生活に欠かすことのできないものであり、安全性確保への迅速な対応が求められるものでありながら、モニタリング体制が確立されておらず、問題になった汚染牛肉と比べても、魚介類のトレーサビリティはほとんどできていない現状である。そのことから、グリーンピース・ジャパンは、政府に「魚介類のモニタリング（魚介類調査）および流通規制の強化」「魚介類流通にあたり、放射能汚染の数値と漁獲海域の表示の義務化」を強く要請した。そして、消費者に呼びかけ、大手スーパーに消費者の声を届けるように「お魚ツイートプロジェクト」を開始した。

【東北】

●3000万個の人工種ガキで再生　東北大など産官学のプロジェクト

東日本大震災の津波によって被害を受け、養殖の牡蠣の生産が減少することが懸念されているが、東北大学が企業や宮城県などと協同で、種ガキの生産に乗り出した。宮城県は、広島県と並んで種ガキの産地だったが、津波で「親ガキのほとんどが流された」（宮城県漁協）状況で、各地のカキ養殖に大きな影響を与えている。東北大などの取り組みは、松島湾のがれきの中からロープに絡まった状態の親ガキ2～300個をもとに、大分県にある企業の研究施設で産卵させ、種ガキを採苗するもので、3000万個体の種ガキを生産して、海で

飼育し、養殖を復活させようとしている。

●環境副大臣が種差・蕪島など視察　三陸復興国立公園へ始動

環境省は、東日本大震災の被害にあった三陸の沿岸部を中心に、これまでの国定公園から復興を記念した「三陸復興国立公園（仮称）」を計画している。近藤昭一環境副大臣は、8月13日に、岩手県宮古市や青森県八戸市を訪れ、種差海岸と蕪島を視察した。これは、復興国立公園の整備に向けた視察で、副大臣は視察後、青森県や八戸市が国立公園編入を目指して頑張っている姿勢を感じたと述べた。この自然公園の再編成は、政府の復興基本方針に書き込まれ、今後10年間の復興期間に整備を終える予定である。

●陸奥湾でナマコの密漁に対応して罰則強化

中国市場でのナマコの需要激増にともなって、日本各地でナマコの資源が減少しつつある。その危機を助長しているのが、密漁である。陸奥湾では、むつ市、川内町、脇野沢村の3漁協で、ナマコの漁獲は、年間10億円にもなっており、陸奥湾の主要な漁業の一つであるが、需要が増加し、価格も高騰していることから、陸奥湾でもナマコの密漁があとを絶たない。また、資源量も底をつく可能性もあり、密漁対策が急がれている。今月から3漁協はむつ警察署らと連携して、陸奥湾沿岸で密漁パトロールを行っている。陸奥湾のなまこ漁は10月に解禁されるが、それまでの密漁をぜひとも止めさせて、重要魚種を守りたいとの思いを強くしている。青森県では、海面漁業調整規則を改正して、無許可操業の場合には、3年以下の懲役または200万円以下の罰金と罰則を強化し、対応を図っている。

●宮古市　田老海岸が震災で再現

岩手県田老には、住民が「須賀」と呼んでいた砂浜を埋め立てて田老新港が 1982 年に漁港整備事業として作られ、2003 年に岸壁が完成した。約 2km に渡って続いていた砂浜は、この事業で完全に消滅してしまった。ところが、東日本大震災と津波によって、同じ田老海岸のあった場所に砂浜が出現した。被災者の間では「昔に戻ったみたいだ」と話題になっている。岩泉町小本地区の漁港でも、同じように昔の砂浜が出現したという。津波は人間の行った自然破壊を修復する力を持っているようだ。人間が生きて生活している以上、自然改変はある程度しかたないが、際限なく海に手を入れて自然を壊すことは、考え直す時期に来ていることを津波は教えてくれたのではないか。

【関東】

●藤沢市で独自の放射能測定　海岸と海水

神奈川県藤沢市では、市内の片瀬東浜、西浜、辻堂海岸、引地川河口の 4 ヶ所で、市独自に放射性物質の測定を定期的に行うこととした。測定結果は市のホームページで公表する。

海水についても測定をすでに月 1 回の頻度で行っているが、これまでのところ、測定限界値（10 ベクレル／kg）を超える値は検出されていない。

●霞ケ浦　今年も COD 目標値に届かず

日本の湖沼や河川の水質でもっとも悪いのが茨城県の霞ヶ浦である。2009 年では、霞ヶ浦の北湖が全国ワースト 1 位で、西浦と常陸利根川がともにワースト 3 位という不名誉な記録を続けている。2010 年度も、茨城県では水質改善に取り組んだが、測定結果は、水質の指標とされる化学的酸素要求量（COD）について、北浦が 9.1mg／L と昨年より 0.9mg 減、西浦が 8.2mg／L と 1.1mg 減、常陸利根川が 9.2mg／L と 0.1mg 減となり、徐々に改善の兆しは見え始めているが、目標としている 7.0mg／L には、遠く届かなかった。流入河川の水質はかなり改善されているが、湖沼に堆積した底泥に含まれている窒素やリンが水温の上昇にともなって溶出してくるようで、霞ヶ浦の浄化は、まだまだ長い道のりが必要のようである。一度汚染した自然はなかなか戻らない。汚すのは一気、戻るのは一生。

●60 種の生き物を確認　三番瀬･猫実川河口域で市民が調査

東京湾三番瀬の保全を図る市民調査の会は、今年の三番瀬・猫実川河口域の定例市民調査を 8 月 1 日に行った。調査内容は、生き物のリストアップ、塩分、透視度、酸化還元電位の測定、アナジャコの巣穴数のカウント、カキ礁の様子など。当日は、カキ礁の北側の一部が干出し、その周辺で調査が行われた。生き物は 60 種を確認。今年は美しいアカエラミノウミウシを発見し、カキ殻の中からイダテンギンポやトサカギンポなどの魚も見つけることができた。

【近畿】

●ウミホタルが淡路の新名物に

8 月 1 日、兵庫県南あわじ市阿万東町で、「阿万（あま）海岸ウミホタル観察会」が開かれた。2008 年から淡路島観光協会の依頼で始めたもので、島内に来ている観光客を主な対象としている。魚のアラを入れた瓶でウミホタルを採集し、水槽に入れて、その青白い発光を楽しむもの。参加者からは、いっせいにウミホタルが光り始めると感嘆の声が上がる。ウミホタルは、体長 2-3mm の小型甲殻類で、蛍光を発する物質を海水に放ちながら移動する。ウミホタルの生息には、海水がきれい、砂がきれい、川が近くにないという 3 条件が必要という。日本海や瀬戸内海、太平洋岸などに分布している。昨年はウミホタルの観察会に約 12300 人が参加した。観光の目玉にしようと淡路島観光協会では期待を持っている。

【中四国】

●写真展「瀬戸内の海」　上関周辺の海の生き物を対象

瀬戸内海の最後の楽園とも言われる上関町周辺の海に生息する希少な生き物の写真展が、山口県柳井市新庄のやまぐちフラワーランドで始まった。写真を撮影したのは、NPO「自然と釣りのネットワーク」理事の藤本正明さん。元小学校の教頭であった藤本さんは 5 年前から潜水を始め、周防大島で世界最大規模のニホンアワサンゴを発見したり、その保護活動を行っている。今回の展示では、ニホンアワサンゴを始め、ウミイチゴやカワリギンチャク、ウミエラ、ケヤリムシ、コミドリリュウグウウミウシ、スナギンチャクなどの珍しい写真を 48 点展示している。この多様で美しい生き物たちが、上関原発の建設によってすべてが犠牲になる可能性が大きい。いまこそ、原発の建設を阻止するために、あらゆる力を集めよう。

●萩沖マグロ「戦争」　地元漁協が規制強化を要望

山口県萩市見島沖周辺の海はクロマグロの好漁場として知られるが、境港市などの大型巻き網漁船によって無秩序な操業が続いており、地元の一本釣り漁師が反発を強めている問題で、山口県漁業協同組合と萩市は、農林水産省に規制強化の要望書を出した。漁協の組合長の話によると「地元の漁業者は操業禁止期間を設けるなど漁場を守る努力をしているが、県外の船はお構いなしに一網打尽にしている」と、操業禁止区域の拡大や水産資源管理の強化を求めた。境港市の漁業者たちが巻き網船のいっそうの大型化を計画したが、地元漁師との話し合いがつかず、計画は白紙となった経緯もある。マグロは漁協による漁業権には属さず、国の直接管理が行われている。

●宍道湖嫁ヶ島へ　水中散歩

島根県の宍道湖の水中散歩を楽しむ会が 8 月 6 日に行われ、住民ら約 330 人が参加して、嫁ヶ島までの 15 分ほどの水中散歩を楽しんだ。「歩いて渡る嫁ヶ島 2011」と称したイベントで、NPO「水の都プロジェクト協議会」が主催し、松江市袖師町の夕日スポットから沖の嫁ヶ島まで水中に張られたロープをつかまって、全員で島に向かって歩いていった。暑さの夏をしのぐには楽しいイベントだったようだが、NPO の目指した嫁ヶ島や宍道湖の環境を守ることに役立っただろうか。

●中海にアマモ　住民が栽培講習

島根県中海で消滅した水生植物のアマモ場を再生しようと、水質悪化が指摘される米子湾沿いの安来市島田地区の住民有志が、8 月 6 日境港市の NPO「未来守（さきもり）ネットワーク」から栽培講習を受けた。住民らはアマモ場の再生を目指して活動を続けることになった。相変わらずアマモ場の再生と称してアマモを植える活動が各地で行われているが、アマモ場の消失原因を明らかにして、その解決を図らない以上、アマモを植えることには

何の意味もないことを、「うみひるも」紙上でもなんども警告してきた。島根県松江市で行われた全国アマモサミットには、本会の向井代表も参加して「アマモの移植」の無意味さを説いたこともある。それでもまだまだアマモ場の再生という言葉でアマモの植え付けが行われている。

●謎の深海魚テンガイハタ　出雲で釣り師に

体長 140cm、体重 2.6kg の巨大な深海魚テンガイハタが、島根県出雲市大社町沖の日本海で釣り上げられた。テンガイハタは、リュウグウノツカイに似た深海に棲む珍しい魚で、生態はまだ謎に包まれている。釣り上げられた場所は、日御碕灯台の沖 15km くらいの水深 120m くらいのところ。本来の生息水深はもっと深いところだと宍道湖自然館ゴビウスの学芸員は話している。これまで釣り上げられた記録はほとんど無いという。テンガイハタはアカマンボウ目フリソデウオ科の魚で、体長 2~3m にもなる。銀白色の平たい体と鮮やかな背びれが特徴的である。

●大橋川改修工事に着手　国交省

　島根県宍道湖と中海を結ぶ大橋川の改修計画で、国土交通省は４日、松江市学園南１丁目の追子地区の築堤工事に着工した。上流部の尾原ダム（雲南市、島根県奥出雲町）、志津見ダム（同県飯南町）、中流部の斐伊川放水路（出雲市）との「３点セット」で計画された斐伊川・神戸川治水対策事業のうち、反対が多かったために 29 年間中断していた大橋川改修工事が本格的に再開した。

●中海で藻刈り　藻を回収して農業肥料に

島根県境港市夕日ヶ丘の弓浜干拓地承水路で、中海漁協の組合員らが小舟を出して、昔ながらの「藻刈り」を行った。採取したのは、緑藻類のシオグサで、回収して農業肥料として利用する。これは中海の水質浄化と海草資源の利用を目指して島根・鳥取両県が連携して行うモデル事業の一つ。受託した団体の一つ、NPO「自然再生センター」が中海再生を目的として試験的に実施したもの。シオグサは近年中海に異常に繁殖し、腐るとヘドロ状になり水質が悪化する。同 NPO が回収したシオグサを買い取り、松江市八束町の工場で肥料に加工し、農家に利用してもらうようなシステムを構築しようとしている。水質の浄化をしながら、海藻の利用にもつながればと期待されているが、問題はコスト。補助金をもらう事業なら成り立つが、補助金なしで農家に高コストの海藻肥料を買ってもらえなければ、目論見も絵に描いた餅だろう。

●中国電力が県幹部らに役員ポストを提供

上関原発建設を進めている中国電力が、筆頭株主の山口県の現職を含む幹部や県議会議員15 名を役員として採用していた事実が、三宅勝久氏の調査で明らかになった。役員の仕事は月 1〜2 回の役員会に出席することだけで、報酬は年 100 万円。上関原発をめぐる動きが活発になった時期のことで、山口県を味方に付けるための工作だった疑いが強い。山口県知事ほか県幹部の子弟が中国電力社員として就職していることも判明しており、中国電力の上関原発建設に向けた裏工作が明らかになってきた。

●愛南で今年もオニヒトデの駆除始まる

愛媛県愛南町で、今年もサンゴの天敵として知られる巻貝シロレイシダマシガイ類やオニヒトデの駆除作業が始まっている。愛南町沖はサンゴが群生する宇和海海中公園の一部。1991 年以来毎年、サンゴの天敵の駆除作業が行われている。今年は延べ 66 人のダイバーが参加、5 つの海域で実施している。愛南町の商工観光課では、「昨年、高知でオニヒトデの大量発生があり、警戒している」と話した。

●鹿島で「海藻標本づくり」　小中学生らが参加

愛媛県松山市北条辻の鹿島で、生物の多様な北条の海を知ってもらうための催し「海藻標本づくり」が開かれ、小中学生ら約 100 人が、夏休みの宿題も兼ねて参加した。北条公民館の主催で今年が 55 回目と伝統的な行事になっている。海藻は主催者らが事前に採集し、当日は子供たちが用意された海藻を選び、水洗いした上で紙の上に並べて水分を取り、海藻の名前を図鑑で調べて書き込んだ。標本は約 1 週間で完成するという。

●黒潮実感センターが「海遍路」

高知大学大学院の山岡耕作教授や黒潮実感センターの神田優センター長らが、海から四国の人と自然の関わりを探ろうとシーカヤックで四国を巡る計画を発表した。名付けて「海遍路」プロジェクト。10 月から約 1 ヶ月かけて高知県を西の宿毛市から東へ進み、2 年目は徳島・香川の沿岸を行き、3 年目は愛媛県から宿毛市に戻る予定。カヤック持参なら併走も許可される。希望者は、黒潮実感センター（0880-62-8022）まで。

【九州】

●農水省、諫早湾開門工事の工程表開示を拒否

国営諫早干拓事業で、昨年12月に福岡高裁が開門調査を命じる判決を出したことに関して、開門派の漁業者らと原告団、農林水産省が 8 月 11 日、協議した。その中で、原告側は開門調査の工程表などを開示するよう求めたが、農水省は開門反対派との話し合いに支障が出るとして開示を拒否、話し合いは結論が出なかった。原告側は国が 2013 年 12 月までに開門する義務があることを強調、工程表を明らかにしなければ、開門反対派との話し合いもできないと訴えたが、農水省は、長崎県側に期限を突きつけるようなことをすれば心証を

害するとして、開門派の長崎県の理解を得ることを最優先する立場を繰り返しただけだった。農水省が判決を素直に受け入れようとしていないところに根本的な問題があると思わざるを得ない。

【沖縄】

●サンゴのゲノム初解読　白化現象解明に期待

石サンゴ類の「コユビミドリイシ」の全遺伝情報（ゲノム）を初めて解読したと沖縄科学技術研究基盤機構の新里宙也研究員や京大名誉教授の佐藤矩行博士らがイギリスの科学誌ネイチャーに発表した。サンゴ礁のサンゴが全ゲノム解析が終わったのは、世界でも初めてで、とくにサンゴと共生している褐虫藻のゲノム解析も同時に行っており、共生のメカニズムや白化現象の解析も今後進み、サンゴの白化によるサンゴ礁の劣化の原因究明に役立つだろうと期待されている。

●泡瀬埋め立て土砂流出　護岸300m侵食

8 月 4～5 日に沖縄本島を通過した台風 9 号の影響で、泡瀬干潟の埋め立て地には、被害が続出した。埋め立て堤防の一部が崩壊し、埋め立て地の土砂が周辺海域に流出して汚染が広がっている。一方、護岸が 300m に渡って侵食され、仮設道路では、幅 25m、高さ 1m ほどが決壊し、ここからも周辺の海域に埋め立て土砂が流出している。泡瀬干潟の埋め立てに反対している住民から、この程度の並の台風でも、この埋め立て地の危険性が明らかになったとして、埋め立て計画の見直し、中止を求める声が上がっている。

2. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【国際】

●ESD のための KODOMO ラムサール＜無錫＞国際湿地交流

～持続可能な地球のために、みんなで湿地をサステイナブル～参加者募集

趣旨・目的：ラムサールセンターは、これまで 9 年間にわたって「日本・中国・韓国子ども湿地交流」、「KODOMO ラムサール」、「KODOMO バイオダイバシティ」と日本のラムサール条約登録湿地の子どもたちを中心にした湿地交流活動をつづけてきました。

今年から舞台をアジアに広げ、アジアの湿地の子どもたちといっしょに、「持続可能な地球のために」学び、行動していく「ESD のための KODOMO ラムサール」活動をスタートさせました。日本政府の提唱で国連が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育）」運動に合流させる事業として、地球環境基金の助成をうけて、3 年計画で実施します。

アジアの子どもたちとの交流をとおして、湿地保全への取り組みをフィールドで実施、学習して、「持続可能な社会を実現するための人づくり」を目標にしています。

環境省環境教育推進室はじめ、積水化学工業など企業、ウェットランドインターナショナル中国やインド環境協会などNGO、チェンマイ大学やマヒドン大学、日本の環境教育の専門家など大学・研究機関と協力して、活動に取り組み、「国連ESDの10年（DESD）」のゴールとなる2014年の「ESDの10年最終年会合」（日本開催）への具体的な貢献をめざします。

今回は、アジア湿地シンポジウム（AWS）の無錫での開催にあわせたイベントとして実施し、「持続可能な地球のために、みんなで湿地をサステイナブル」をテーマに、中国の湿地について学び、日本の子どもたちの活動を中国に紹介、交流して、共同メッセージをつくって発表します。

期　日：2011年10月８日（土）～10日（月）＊２泊３日
開催地：中国江蘇省無錫市、「太湖（タイフー）」湿地
会　場：無錫市太湖国際展示場
主　催：ラムサールセンター（RCJ)、ESDのためのKODOMOラムサール実行委員会（RCJ、積水化学工業ほか）、ウェットランドインターナショナル（WI）中国
協　力：中国国家林業局湿地保全管理センター、江蘇省林業局、無錫市
協　賛：積水化学工業株式会社、無錫積菱塑料有限公司
助　成：環境再生保全機構地球環境基金

無錫市と太湖（タイフー）について

無錫市は中国の長江の下流域、江蘇省南部に位置する、人口約500万人の商工業都市です。市の南部には中国で3番目に大きい淡水湖（面積は約2428㎢）の太湖があり、早くから米などの農産物や太湖から獲れる水産物が豊富な地としてにぎわいました。そのため、「米と魚の故郷」と言われていました。湖にはいくつもの半島が連なり、周りは72の峰に囲まれていて、湖中には48の島が浮かぶ美しい景観として有名な観光地です。

最近の商工業都市としての発展にともない、湖の水質汚染が進みつつあり、昔の美しい太湖の環境をとりもどすためのさまざまな取り組みが進められています。

上海から鉄道か高速バスで2時間ほどの距離です。

プログラム（予定）

<u>１日目　10月8日（土）</u>

午前中	国内空港（成田、羽田、名古屋、関西）から上海空港へ。鉄道か高速バスで無錫市へ。
16:00	開会式　アイスブレーキング　オリエンテーション
夜	子ども交流プログラム①　活動発表

<u>２日目　10日9日（日）</u>

午前　　子ども交流プグラム②　フィールド学習　太湖

午後　　子ども交流プログラム③　劇団シンデレラ（藤前干潟）の ESD パフォーマンス　グループディスカッション　KODOMO メッセージづくり、ポスターづくりに向けて

夜　　子ども交流プログラム④　AWS へのメッセージとポスター「持続可能な湿地・太湖をとりもどすために」づくり

リーダー研修プログラム（先生・引率者向け）

「持続可能な開発のための環境教育」　講師：川嶋宗継（チェンマイ大学客員教授）　チチョン・パララクシ（チェンマイ大学准教授）

3日目　10 月 10 日（月）

9:00　　子ども湿地交流⑤　「湿地と生態系保全万博」会場で、KODOMO ラムサール　ブースの設営・展示

11:00　　解散　無錫市からバスで上海空港へ移動、帰国

4日目　10 月 11 日（火）

KODOMO 代表が「AWS 無錫」に参加。KODOMO メッセージを発表

募集対象、人数

全国 37 のラムサール条約登録湿地およびその他の湿地で活動している、湿地に関心のある小学生（5年生以上）～高校生。定員 10 人。（引率者3人程度）　応募者が多数の場合は選考します。

費用

⑴子ども：参加費 50,000 円（国際交通費、現地での宿泊費、食費、移動費などを含む）

※出発空港までの国内交通費（前後泊の宿泊費も）は原則自己負担ですが、遠方から参加する場合は、旅費の一部（最大で半額程度まで）の補助を考慮します。

⑵引率の方：参加費 60,000 円（国際交通費、現地での宿泊費、食費、移動費などを含む）

※出発空港までの国内交通費（前後泊の宿泊費も）は原則自己負担です。

参加の条件

⑴自然環境とボランティア活動に関心をもち、積極的に交流でき、行動できること。

⑵身近にある湿地の情報をみんなに伝えたい、アジアの湿地のこと（とくに湿地の生きもの）を知りたい、学びたいと思っていること。

⑶イベント終了後、1か月以内に簡単なレポートを提出すること。

⑷イベント開催中の怪我や事故などについては、原則として自己管理、自己責任です。この点を理解、了承すること。

⑸保護者の了解を得ること。

(6)エコクラブや NGO などの団体に所属している子どもは、団体の了解も得ること。

応募方法

参加希望者は、募集要項を確認して、添付の「応募用紙」と「参加したい理由」に記入し、ラムサールセンター事務局まで、郵送・FAX・メールで申し込んでください。

応募締切

2011 年 8 月 20 日（土）

＜参加申し込み・お問い合わせ＞

ラムサールセンター　担当：中村玲子（なかむられいこ）・渡辺美沙（わたなべみさ）
〒146-0084 東京都大田区南久が原 2-10-3 TEL :03-3758-7926 FAX :03-3758-7927
E-mail：ramsarcj.nakamura@nifty.com

【全国】

鎌仲ひとみ監督作品　映画「ミツバチの羽音と地球の回転」、映画「ぶんぶん通信」、纐纈あや監督作品　映画「祝（ほうり）の島」の上映予定はまとめて日程と場所のみを書くことにしました。詳しくはそれぞれの公式ホームページをご覧下さい。

●鎌仲ひとみ監督作品　映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

8 月 19 日（金）　札幌市（北海道）
8 月 19 日（金）　盛岡市（岩手県）
8 月 19 日（金）　東村山市（東京都）
8 月 20 日（土）　伊勢市（三重県）
8 月 20 日（土）　魚沼市（新潟県）
8 月 20 日（土）　羽村市（東京都）
8 月 20 日（土）　下田市（静岡県）
8 月 21 日（日）　宍粟市（兵庫県）
8 月 21 日(日)　備前市（岡山県）
8 月 27 日（土）　篠山市（兵庫県）
8 月 27 日（土）　豊後高田市（大分県）
8 月 27 日（土）　大阪市（大阪府）
8 月 27 日（土）　筑紫野市（福岡県）

8 月 27 日（土）　前橋市（群馬県）
8 月 27 日（土）　上伊那郡（長野県）
8 月 27 日（土）　牧之原市（静岡県）
8 月 28 日（日）　奥州市（岩手県）
8 月 28 日（日）　足利市（栃木県）
8 月 28 日（日）　平塚市（神奈川県）
8 月 29 日（月）　南会津郡只見町（福島県）
9 月 3 日（土）　大和郡山市（奈良県）
9 月 4 日（日）　松江市（島根県）
9 月 4 日（日）　小郡市（福岡県）
9 月 5 日（月）　柏市（千葉県）
9 月 7 日（水）　玖珠郡九重町（大分県）
9 月 9 日（金）　伊勢崎市（群馬県）
9 月 9 日（金）　調布市（東京都）
9 月 10 日（土）　出雲市（島根県）
9 月 10 日（土）　名古屋市（愛知県）
9 月 10 日（土）　黒石市（青森県）
9 月 11 日（日）　余市郡仁木町（北海道）
9 月 11 日（日）　由布市（大分県）
9 月 11 日（日）　安来市（島根県）
9 月 11 日（日）　横浜市（神奈川県）
9 月 12 日（月）　文京区（東京都）
9 月 14 日（水）　長岡市（新潟県）
9 月 14 日（水）　調布市（東京都）
9 月 16 日（金）　所沢市（埼玉県）
9 月 16 日（金）　長岡市（新潟県）

●鎌仲ひとみ監督作品　映画「ぶんぶん通信」上映予定

8 月 20 日（土）　新見市（新潟県）
8 月 20 日（土）　港区新橋（東京都）
8 月 25 日（木）　千葉市（千葉県）
8 月 25 日（木）　杉並区（東京都）

8 月 29 日（月）　浦安市（千葉県）
9 月 12 日（月）　千葉市（千葉県）
9 月 13 日（火）　千葉市（千葉県）

●纐纈あや監督作品　映画「祝の島」上映予定

8 月 18 日（木）　山口市（山口県）
8 月 20 日（土）　尼崎市（兵庫県）
8 月 27 日（土）　三島郡（大阪府）
8 月 27 日（土）～　渋谷（東京都）
8 月 28 日（日）　篠山市（兵庫県）
9 月　4 日（日）　港区（東京都）
9 月　4 日（日）　八丈島（東京都）

【関東】

●OWS 造礁サンゴ分布調査　荒崎探索調査（スノーケリング）

造礁サンゴ探索調査を三浦半島の荒崎海岸で実施します。荒崎での調査はスノーケリングによる調査で、昨年に続き２回目の開催となります。昨年の調査ではたくさんの造礁サンゴを確認できました。今回は調査エリアを広げて探索を行う予定です。調査が初めての方もご遠慮なくお問い合わせください。

開催日　：2011 年 8 月 28 日（日）　日帰り
開催場所：神奈川県横須賀市荒崎海岸
募集人数：6 名（最少催行人員 2 名）
集合　　：「荒崎海岸駐車場」11:00 集合
参加実費：メンバー4,000 円／非会員 4,500 円　※保険料含む
対象者　：スノーケリング経験者
申込締切：8 月 19 日（金）17 時までに OWS 事務局にご連絡ください。

詳しくは、こちらをご覧ください。　⇒http://sango.ows-npo.org/discovery.html

●OWS 海辺のナチュラリスト講座（スタッフ研修特別コース）

OWS では今年度も、子供を対象とした海辺で行う自然体験学習プログラム「ネイチャースクール三浦（日帰り）」を実施します。この「ネイチャースクール」にスタッフとして参加を希望される方は、このコースご参加ください。

この特別コースでは、ネイチャースクールの実施準備のほか、海辺の自然や生き物と親しみ、楽しみながら自然を守るための基礎的な知識や方法を学べます。参加者には修了証として「ナチュラリスト」カードが発行されます。スノーケリングやダイビングなど特別

なスキルは必要なく、健康な方ならどなたでも参加できます。この機会にぜひご参加ください。

※2011 年 5/28～29 に開催した講座（第 1 回）の様子はこちらのブログを
ご覧ください。⇒http://ows.seesaa.net/article/206682429.html

▼ネイチャースクールとは？（参考）

⇒ http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html

＜海辺のナチュラリスト講座（スタッフ研修特別コース）2011 年度第 3 回＞

開催日　2011 年 9 月 3 日（土）～4 日（日）　1 泊 2 日

開催場所　三浦半島

募集人数　6 名（最少催行人員 3 名）

受講費　7,000 円（特別価格）　※通常受講費は 13,800 円
※別途、宿泊費（1 泊 2 食付：8,000 円）、食費、往復交通費

対象者　1 回以上ネイチャースクールにスタッフとして参加できる方
※OWS のサポーターまたは正会員への登録が必要となります。

申込み･問い合わせ　OWS 事務局までホームページから、またはＥ-mail、お電話にてご連絡ください。(TEL:03-5960-3545)　⇒ http://www.ows-npo.org/volunteer/index.html#ns1

●OWS 第 61 回 海のトークセッション
「文明のひずみと希少な自然が交差する島・ミッドウェー」

スピーカー：横山耕作（OWS 代表理事）

ミッドウェー環礁のある北西ハワイ諸島は、米国の「海洋国家遺産」に指定された世界最大の海洋保護区で、2010 年にはユネスコの「世界遺産」にも登録されました。中でも北太平洋屈指の野生生物の繁殖地ミッドウェー環礁は津波被害を受けながらも、生命の息ぶきにあふれていました。しかし、日本を含む沿岸諸国から流出する大量のプラスチックゴミが洋上に滞留する海域に位置するため、野生生物に深刻な影響を及ぼしています。このトークセッションでは最新の現地情報を紹介し、映像を見ながら一緒に考えたいと思います。（横山）

開催日　2011 年 9 月 7 日（水）19：00～20：30 (18：30 受付開始)

会場　モンベル渋谷店　５Ｆサロン
渋谷区宇田川町 11-5　モンベル渋谷ビル

参加費　非会員　：800 円　メンバー：500 円（前日までに申込の方に限ります）

懇親会　別会場で懇親会を予定しています（4,000 円程度）
※参加ご希望の方は事前にお申込ください。

申込み　トークセッション申込フォームからお申込みください。

⇒ http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#ts61

●シンポジウム「東京湾の環境と魚たち、今・昔」

日時：　9 月 3 日（土）、4 日（日）　9:30-17:00

所　：　東京海洋大学　楽水会館（品川）

第 1 部：　9 月 3 日

「東京湾の変貌と江戸前の魚」

・　東京湾の変貌と課題

・　江戸前の魚は粋で食う

・　ヨーロッパにおける海藻食推進

パネル討議　　話題提供　　総合討論

第 2 部：　9 月 4 日

「東京湾の環境修復」

・　東京湾環境再生ポテンシャル

・　みんなで良くする東京湾

・　東京湾の環境修復

パネル討議　　話題提供　　総合討論

海の森づくり基金発起人会の創設

参加申込：　海の森づくり推進協会事務局　090－4914－2345　info@kaichurinn.com

●東京海洋大学 江戸前 ESD 協議会

《江戸前みなと塾 第Ⅱ部 学びのアクション 江戸前漁業の世界を知ろう》

東京海洋大学 江戸前 ESD 協議会（共同代表：石丸 隆、河野 博）は、４回連続講座「江戸みなとを学ぼう 江戸前みなと塾 第Ⅱ部 学びのアクション」の参加者を募集します。東京海洋大学江戸前 ESD 協議会は、江戸前の海＝東京湾の恵みを、これからの世代がずっと享受していけるように、みんなで学びあうことを目的として活動しています。今回、開催する「第Ⅱ部 学びのアクション」では、江戸前漁業の昔と今を、研究者や漁業者のお話を聞き、また、江戸前の海を船で巡り、アナゴを調理して、参加した全員で体験を分かち合い、これからの江戸前の海についていっしょに考えます。くわしくは下記をごらんください。また、お申し込みには、ちらし（PDF）裏面の申込用紙をお使いください。

記

■期日：時間はおおむね午後１時３０分～午後５時を予定しています

第１回　１０月　８日（土）　開講式、始めのワークショップ

第２回　１０月２２日（土）　学びのアクション１：昔の海苔漁業を知る

第３回　１１月１２日（土）　学びのアクション２：今のアナゴ漁を知る

第４回　１１月１９日（土）　終わりのワークショップ、閉講式
■場所：東京海洋大学・品川キャンパスなど（都合により場所や内容が変更になる場合があります）
■受講料：無料
■定員：　１０名（１８歳以上）
　受講される方には全回参加をお願いいたします。全回参加された方には「修了証」を差し上げます。必ずご本人様がお申し込みください。
■お申込みはＦＡＸ、電子メール、郵便でお願いします。
ＦＡＸ：　０３－５４６３－０５７４（ちらしの裏面に申込用紙があります）
電子メール：ｋａｗａｂｅ＠ｋａｉｙｏｄａｉ．ａｃ．ｊｐ
郵便宛先：〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学　８号館５０５号室 川辺研究室
■お申込み期限：２０１１年９月９日（金）
■お問い合わせは　０３－５４６３－０５７４（川辺）まで
■定員を超えた場合は、お断り申し上げることもあります。どうかご了承ください。
■この講座は港区芝浦港南地区総合支所と一緒に開催します。

●海洋政策研究財団　OPRF 第 82 回海洋フォーラム
「海の視点による震災からの復興ー海洋調査研究の展開ー」

四方を海に囲まれた海洋国日本の発展のためには､海洋に関する情報の共有や意見の交換、また、必要なことを海洋政策に反映させる力の集結が必要であると考えます。そこで、海洋政策研究財団では､その時々の海洋に関する社会の関心事項の中からテーマを選定して、概ね月１回のペースで「海洋フォーラム」を開催しています。

1. 日　時：平成 23 年 8 月 30 日（火）17：00～18：30（受け付け開始 16：30）
2. 場　所：東京都港区虎ノ門１－１５－１６　海洋船舶ビル　１０階ホール
3. テーマ：「海の視点による震災からの復興ー海洋調査研究の展開ー」
4. 講　師：道田　豊氏（東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター　教授）注）講師、演題については予告なく変更することがありますので、予めご了承下さい。

さて、本年３月１１日に発生した東日本大震災で影響を受けた沿岸地帯は、日本の水産業において重要な役割を担っており、被災地の沿岸漁業の復興は、被災した人々の生活再建だけでなく、日本の食料生産の維持にとっても不可欠です。しかしながら、津波によって攪乱を受けた沿岸海域の実態は明らかになっておらず、今後は、水産業を支える沿岸海洋生態系の回復過程を把握し、科学的根拠に基づく適切な漁業活動の提示なども含めた沿岸漁業の回復に取り組むことが必要です。そこで今回は、東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター教授の道田豊氏を講師にお招きし、海の視点による震災からの復興に向けた

海洋調査研究の展開についてお話を頂くことといたしました。つきましては、海洋問題に関心の深い皆様方の積極的なご参加を賜りたく、ご案内申し上げます。
◆海洋フォーラムへの『参加申込み』は、当ホームページ・FAX・郵送のいずれでも受付けています。参加申込み
◆申込み受付のご連絡はいたしませんので、当日直接会場にお越し下さい。

●「海、山、いのち　それともお金？　自然と環境を守る全国交流会」

8 月 10 日(土)　　10：00～16：20
慶応大学 三田キャンパス南館 ディスタンスラーニング室（地下４階）
アクセス　ＪＲ山手線・京浜東北線の田町駅下車、徒歩 8 分
都営地下鉄浅草線・三田線の三田駅下車、徒歩 7 分
基調報告「いま私たちに求められていること」
川村晃生さん（慶応大学文学部教授、全国自然保護連合代表）
講演「自然を破壊する公共事業の裏側」
横田　一さん（フリーリポーター）
講演「脱原発とエネルギー政策の転換」
伴　英幸さん（原子力資料情報室共同代表）
パネルディスカッション（13:00～15:50)
司会　川村晃生さん
パネラー　水野隆夫さん(沖縄・泡瀬干潟大好きクラブ)　澤井正子さん(原子力資料情報室) 橋本良仁さん(高尾山の自然をまもる市民の会) 渡辺洋子さん(八ッ場あしたの会) 懸樋哲夫さん(リニア・市民ネット)
参加費　７００円
主催「自然と環境を守る全国交流会」実行委員会
junc@js8.so-net.ne.jp　　TEL・FAX　047-472-5324

【東海・中部】

●【シャチと水族館　～ シャチを水族館で飼育する、ということ～】

名古屋港水族館で、鯨類の飼育を主な目的とした北館がオープンしたのは 2001 年 11 月 1 日、今年で 10 年になります。主役となるはず だっ た シャチの入手が間に合わず、ベルーガとバンドウイルカの２種類の飼育でオープンしました。現在ではカマイルカが加わり３種類が飼育されて います が、北館の主役と期待されたシャチを飼育した期間もありま

した。これまでに雌シャチ「クー」を繁殖研究目的で借り受け、死亡するまでの約 ５年 間飼 育し、その後、雌シャチ「ナミ」を５億円で購入して研究継続を目指したものの、約７ヶ月で死亡する結果となりました。

水族館で鯨類、特にシャチを飼育するとはどういうことなのか。多くの研究者たちの永年の成果で、シャチの海で暮らす姿、本来の生態がわかるにつ れ、水族館でシャチを飼育することの問題点もわかってきました。今回、シャチの生態調査に関わった経験をお持ちの方と共に、これまで水族館で鯨類を飼育する事の問題点を訴えてきた当ネットワーク代表が、この 問題についてお話させて頂くことになりました。水族館でシャチを飼育することについて、ご来場の皆様と一緒に改めて考えてみたいと思います。

日　　時：２０１１ 年８月２８日 （日）１４:００～１６:３０（開 場１３:３０）
場　　所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）１３０６ 会議室
〒450-0002　名古屋市中村区名駅４－４－３８　　電話：(052)571-6131
定　　員：３６名
主　　催：名古屋港水族館を考えるなかまたち
共　　催：イルカ＆クジラ・アクションネットワーク
後　　援：シャチ・ドット・ジェイピー
お問合せ先：名古屋港水族館を考えるなかまたち e-mail: Kangaerunakama@aol.com

プログラム

14:00～14:05　挨拶

14:05～14:45　講演１　佐藤晴子

14:50～15:30　講演２　倉澤七海（イルカ＆クジラ・アクションネットワーク）

15:40～16:30　総合討論

●磯の生き物観察会　【伊豆海洋自然塾】

潮の香りと涼しい海風の中、親子でゲーム形式で磯の生き物をさがしているうちに、いつの間にか「磯の生き物博士」の誕生です！

体験内容	
■実施時期	2011 年　７月２４日、８月８日、８月９日、８月２１日、８月２２日
■実施時間	朝７時から８時まで
■体験時間	１時間程度
■体験料金	一人 500 円（傷害保険料を含む）　※未就学児童は無料
■体験場所	須崎地区　エビス島　※現地集合

■体験人数　　30 名程度

■その他　　濡れてもよい靴、マリンブーツ、足首などが固定されるサンダルなどを準備して下さい

参加を希望される場合は、下記申込連絡先へご連絡ください。

問合わせ・申込方法

■名前　　下田市自然体験推進協議会　海担当：伊豆海洋自然塾

■住所　　下田市東本郷１－５－１８

■電話　　0558-22-3913

■ＦＡＸ　　0558-22-3910

■メール　　kankou@city.shimoda.shizuoka.jp

■申込連絡先　　株式会社タクト（0558-23-7577）まで

●磯と干潟の生きもの観察会

海の博物館近くの海辺に行き、カニ類やヒトデ類、ウミウシ類などを観察しよう。珍しい海の生きものに出会え、楽しく海辺の環境を学ぶ人気の観察会だ。見たこともない生き物に出会えるチャンス！ 持ち物：ぬれても良い靴、帽子、お弁当。※日によって、体験の内容が異なるので、詳細は HP 参照 各日定員３０名程度（要予約）

●名称 磯と干潟の生きもの観察会

●開催地　海の博物館　地図

●所在地 〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉 1731-68

●開催期間 2011 年 5 月 22 日～8 月 28 日

●料金 有料　小学生以上 800 円（入館料含）

●アクセス(車)　伊勢西ＩＣより約４０分

●アクセス(公共交通)　近鉄・ＪＲ鳥羽駅よりカモメバスにて約３５分

●駐車場　あり無料

●問い合わせ先　海の博物館　TEL:0599 -32 -6006

※情報は予告なく変更になる場合がございます。観光イベントの中止や開催期間の変更などに関しては、問い合わせ先にご確認ください。

【中四国】

●上関・自然の権利訴訟第９回公判

8 月１７日(水)　11：00～　山口地裁　傍聴希望の方は 10：00 集合

公判終了後　山口県林業会館で報告集会

●子どもたちに安全な未来を　講演報告会

8 月２０日(土)　13：30～尾道市公会堂

講師　小出裕章さん（京都大学原子炉実験所助教）

主催　小出裕章に聴く会（090-5705-6491　大住元）

●さよなら上関原発全国集会

8 月２８日(日)　１3：30～15：30　山口県熊毛郡上関町室津港埋立て地

主催：上関原発を建てさせない祝島島民の会・長島の自然を守る会

原発に反対する上関町民の会」・原水爆禁止山口県民会議

●2011 年海岸生物調査（環瀬戸内海会議）

現在決まっている日程(8 月 10 日現在)

８月２７日　１３：００～岡山県瀬戸内市牛窓　弁天島他

９月２５日　エスコープ大阪（岬公園、場所、時間等詳細調整中）

【九州】

●中津干潟「水辺に遊ぶ会」アカテガニ観察会

日　時：２０１１年８月２９日（月）雨天中止

天候がよくても波が高いときなど中止の場合もあります

２１時３０分～

場　所：中津市　大新田海岸（セブンイレブン奥）

参加費：大人２００円、高校生以下１００円

持ち物：懐中電灯・長靴・

タオル・虫よけなど

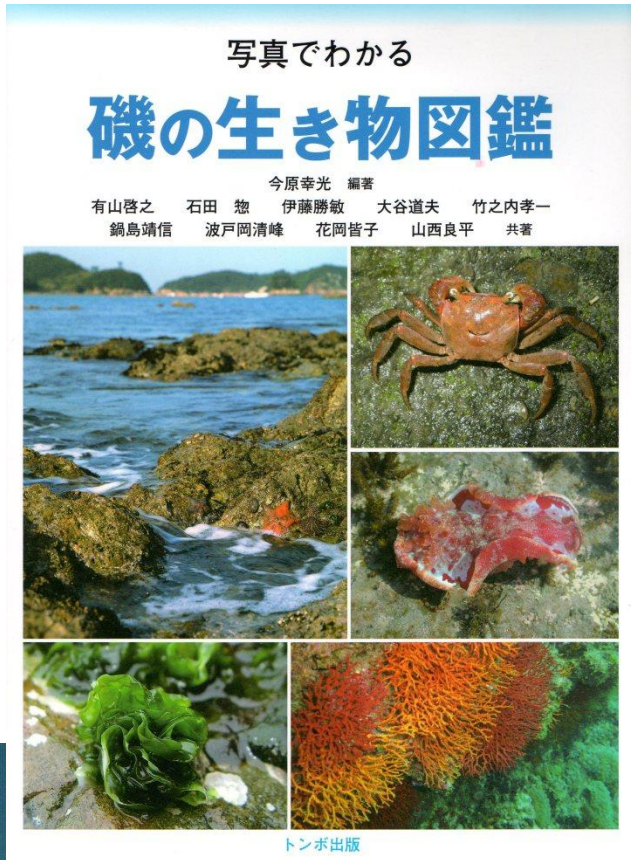
中学生未満のお子様は、必ず保護者同伴

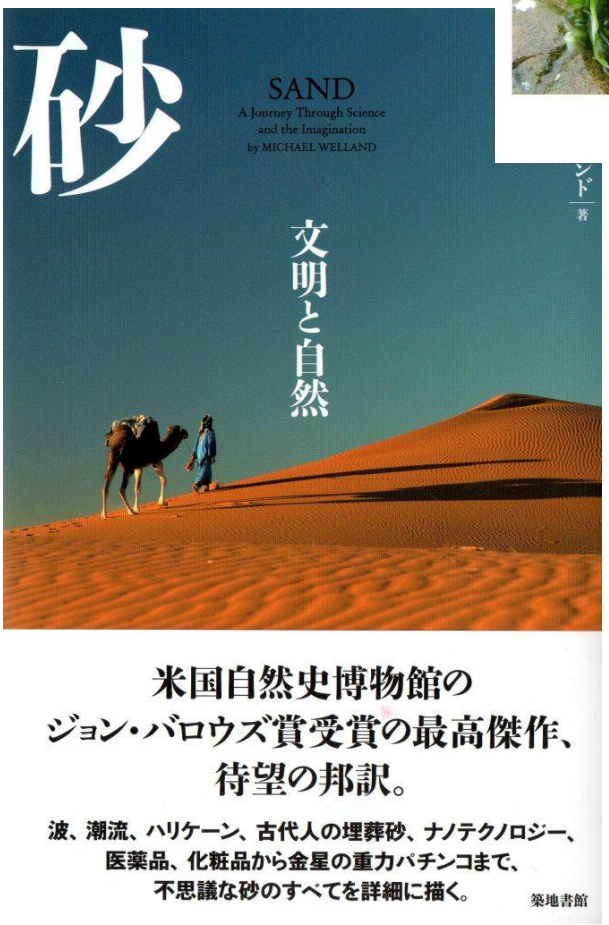
連絡先：連絡先：足利、メールはこちら

3. 海の生き物とその環境に関する本とweb

●「写真で分かる磯の生き物図鑑」　今原幸光（編著）　トンボ出版　pp. 269，定価　2490 円（2011 年）

磯の観察会などでよく見かける動物や海藻・海草を見やすい写真入りで、現場に即して開設してあるので、初心者に親切であり、指導者が初心者に解説するためにも非常に便利な本である。大判であるが、現場に持ち込んで見ながら観察するにはお薦めの本。意外と知らないことも書かれているので、磯の観察がいっそうたのしくなるだろう。





●「砂　-文明と自然-」マイケル・ウェランド著・林裕美子訳　築地書館　pp. 419，価格 3,000 円　（2011 年）

海の生き物を守る会会員の林裕美子さんが翻訳を担当した本。林さんは、宮崎県の自然海岸を守るために活動していますが、この本は、砂浜海岸のあり方を考える上でも、非常に貴重な情報を提供してくれる。宣伝文句は帯の文句を見てもらうとして、砂粒子の物理的性質から、海岸の砂の挙動、地球環境の行方まで、楽しみながら海岸のことを勉強できる。

４．きらめく動物たちの命と海
【久保田信の白浜だより（その１０）】

大形タカラガイ類の打上　―田辺湾は世界分布の北限

2004 年 7 月 22 日、白浜町臨海の北浜に、珍しいホシダカラガイの貝殻が打ち上がった。殻の大部分が欠けていたが、口側と周囲は残っており、長さが 95 mm あって、成貝であった。タカラガイ類は、熱帯や亜熱帯の海の代表である。つやのある色模様の貝殻は、まさに自然の芸術品である。安産のお守りとして使われたこともあり、子安貝とも呼ばれる。平安時代初期に書かれた SF『竹取物語』で、かぐや姫が出した難題の一つ『ツバメの子安貝』は有名な話だ。

タカラガイ類のほとんどの種は小形で、人の爪くらいのものが多い。ホシダカラガイは田辺湾産の最大種で、貝殻の長さは 10 cm ほどに達する。これほど大きなものなら、多数見つかってもおかしくないが、ここでは稀にしか捕れないのは、生息数がかなり少ないからだろう。田辺湾周辺海域でのホシダカラガイの記録は、1974 年以降の 25 年間でわずか 13 個体しかないことを、瀬戸臨海実験所元職員の田名瀬英朋さんと樫山嘉郎さんの３人で、南紀生物 41 巻（1999 年）に報告した。これまで報告した成貝はたった２個体だけだったので、今回の発見は貴重な記録となった。各地での調査から、ホシダカラガイは三浦半島以南で記録されているのだが、成貝の分布の北限は田辺湾であることが分かった。しかも、この種の分布の世界の北限ともなっており、貴重な記録なのである。

▲生きたタカラガイ類の軟体部の不思議な形

北浜には田辺湾周辺海域に生息するタカラガイ類の大半にあたる 20 種余りが打ち上がっている。本場の沖縄だと、この倍以上の種類がいる。世界中では 200 種ほどが知られるが、そのほとんどがインド・西太平洋に生息している。南西諸島などに行くと、生きたホシダカラガイが観察できる。生体では、軟体部の外套膜がすっぽり貝殻を被うので、一見するとこの種だとはわからない。一般にタカラガイ類の外套膜は突起だらけで、貝殻の色彩とは無関係な色合いと模様が入る。特徴ある貝殻を外套膜で隠したホシダカラガイは、生きている時を知っていなければ、一見すると大きなウミウシ類としか見えないだろう。

タカラガイ類の外套膜は、貝殻の背中側中央で両側からあわさるのだが、巻貝類でこの

ような特徴をもっているものは稀で、マクラガイ類くらいである。このようなむきだしの外套膜は、貝殻をだんだんと上塗りするので、厚くて丈夫なつややかなものに仕上げてゆく。真珠貝やアワビなどを除き、どのような貝殻のつやつやと磨かれた内側よりもタカラガイの貝殻は美しい。

タカラガイ類は、軟体動物の中では巻貝類に属するのだが、成貝の貝殻を見ても、「どこが巻貝なのか？」と思ってしまう。しかし、幼貝を見ると納得するはずだ。大きな口が広がり、普通の巻貝の形をしている。逆に、これほど形に差があるため、親子関係を知らないと種が確定できなくなる。元瀬戸臨海実験所職員の森山惣一さんが、1980 年 11 月 19 日に、円月島の近くで生きたホシダカラガイを捕獲した。この貴重な幼貝は、同実験所の水族館で飼育したものの、翌 1981 年 1 月 6 日に死亡した。ホシダカラガイは南方系の貝なので、野外と同温の水槽では、当時の冬季の低水温に耐えられなかったからである。

▲タカラガイの生活史

タカラガイ類の生活史の概略はほぼ分かっている。雌親が卵嚢を岩の裏などに産み付け、孵化するまで守っている。よく知られているように、タコの雌親が卵塊を守るのと同じ母性愛を示す。手厚く保護されたタカラガイの卵は、丈夫なカプセル内で発生を進め、羽のような面盤をもち、蝶の様な姿のベリジャー幼生に成長する。この小さなプランクトン性の幼生は卵嚢から海中に出て、海流に乗って分布を広げる旅に出る。ホシダカラガイも遠く南西諸島の亜熱帯の海底で生まれ、黒潮に乗って紀伊半島沿岸にやってきているはずである。だが、海底に落ち着いてせっかく小さな貝に育っていても、冬季の水温が低い年には凍死してしまう。北限分布の海域ではこのような盛衰は否めない。これまで田辺湾周辺で発見されたホシダカラガイ 13 個体のうち 2 個体の幼貝は、1976 年の寒波で死亡したものである。その年の 2 月に北浜で発見されたのだが、1 月下旬に海水温が 11 度まで低下したため、28 種 1325 個体ものタカラガイ類が大量死し、この中に混じっていた。

田辺湾周辺でホシダカラガイの生きたものを発見するチャンスは少ない（図)。南紀生物誌 41 巻で報告した通り、過去にはたった 3 個体の幼貝だけが生きたまま捕獲され、あとは死んだ殻ばかりである。1 個体だけだが、貝殻の中に腐臭がする軟体部がまだ残っている幼貝もあった。このような状態での記録も生息を記録する重要な証なのである。

図. 和歌山県白浜町のシンボル・アイランド、円月島のすぐ前の岩礁で、2008年9月13日に発見されたホシダカラガイの成貝

5．事務局便り：

●この「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

●企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。

●このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。

●このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

●本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

●本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

6．編集後記

立秋も過ぎましたが、今年も暑さがこたえる猛暑が続いています。　海が恋しいのですが、なかなか海に出かけることができません。欲求不満の夏が続きます。しかし津波で家を流された人たちや、福島原発事故で家を追われた人々にとって、夏が過ぎても地獄は続きます。彼らのことを思えば、暑い夏にエアコンなしで耐えることは造作もないことでしょう。忙しい夏に「うみひるも」を予定の一日遅れでお届けします。次号も予定の 9 月 1 日にお届けできないことがほぼ確実で、9 月 16 日に次号をお届けすることになります。ご容赦下さい。（宏）

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp （向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

メールマガジン『うみひるも』第 84 号
2011 年 8 月 17 日発行
発行＆編集人「海の生き物を守る会」
代表　向井　宏
〒606-8244　京都市左京区北白川東平井町 23-1
グリーンヒル北白川 23
TEL&FAX:075-703-7205　メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp
ホームページ URL：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html
銀行口座：ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会